

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	チームFUJISAWA2020推進事業費	所管課	市民自治推進課
まちづくりテーマ	重点施策名		
2.誰もが、豊かに生活し、支えあう社会をつくる	コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進		

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
地域活動、市民活動などの担い手不足は深刻化してきている一方、企業や教育機関による地域貢献のニーズは高まっている。東京2020大会を契機として培われたボランティアに関するノウハウや熱意をレガシーとして次世代へ確実につなぎ、市民が主体的に地域課題を解決する協働のまちづくりを進めていくため、ポータルサイトを活用して積極的にボランティアへの参加機会を創出する「チームFUJISAWA2020」の取組を推進する。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
ボランティア募集团体登録数、ボランティア個人登録者数、ボランティア募集件数、サイト閲覧データ、ボランティア参加データ			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
藤沢市民にとって、ボランティア活動がより身近な存在となり、助けあい、支えあいの社会が自然なものとして成立している。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
積極的にボランティア参加をする、いわゆるアクティブユーザーを増やすため、ボランティアポイント制度の導入を行った。このことにより、基本目標8に示す「市民活動と地域づくりのさらなる充実」に向け、市民に対して「地域を支える様々な活動への参加」への動機付けを行った。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
ボランティアなどの活動が積極的に行われていると感じますか？	2.90	2.86	2.71
把握した市民等のニーズとその対応			
行政主導から脱却するため、令和5年度から市内大学への運営委託を開始。			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 ■インクルーシブ藤沢 ■スマート藤沢
ポータルサイトやSNSを活用し、多様な主体による多様な活動の活性化と、持続可能な地域社会の実現を目的としているため。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	パートナーシップで目標を達成しよう
②	
③	

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	六会地区まちづくり事業費	所管課	六会市民センター
まちづくりテーマ	重点施策名		
2.誰もが、豊かに生活し、支えあう社会をつくる	コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進		

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
これまで、六会地区については高齢者を中心とした交通弱者、買い物難民などの課題となっていた。また多様化する地域課題についてもこの間、様々な取組を進めてきた。このような課題を解決するためには、地域まちづくりテーマ「素的なふるさと 六会」を実効性あるものとし、地域の力を生かした様々な活動・事業に基づき、特性に応じたまちづくり事業が推進が必要であると考え。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
「素的なふるさと 六会」を目標に様々なまちづくり事業を実施することは、地域文化、郷土を愛する心を醸成し、地域の活性化と地域力を生かしたまちづくりを進めることで、まちづくり事業参加者数延べ3,000人を継続的に維持し、将来的には事業主体を地域住民へと移行することが有効であると捉えている。 ・「総合指針2028 令和7年度重点事業のKPI目標」 まちづくり事業参加者数 1,500人 → 令和7年度実績 約3,500人			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
「自助」「共助」「公助」による助け合いがバランスよく機能し、地域のテーマ「素的なふるさと 六会」を住民が主体となり着実に実行していくための姿。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
「素的なふるさと 六会」をテーマとしたまちづくり事業を継続的に実施していくことで、地域のつながりの強化と住民主体のまちづくりを推進し、加えて行政が有機的な連携を図ることで、基本目標8にある「多様な主体との共創が生み出される地域づくりを進める」に寄与するものと捉えている。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること	2.94	2.93	2.74
把握した市民等のニーズとその対応			
全体集会等で把握した住民ニーズについては、課題として捉え、その解決にスピード感をもって、まちづくり事業の一環として実施している。			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 ■インクルーシブ藤沢 □スマート藤沢
地域住民が主体となり、地域の特性を生かした、誰にでも楽しめる事業を実施することにより、まちづくり推進の原動力である地域住民のつながりと郷土愛を醸成することで、サステナブル藤沢・インクルーシブ藤沢の実現のに向けた布石としている。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	すべての人に健康と福祉を
②	住み続けられるまちづくりを
③	パートナーシップで目標を達成しよう

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	片瀬地区地域まちづくり事業費	所管課	片瀬市民センター
まちづくりテーマ		重点施策名	
2.誰もが、豊かに生活し、支えあう社会をつくる		コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進	

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
片瀬地区は人口の減少と高齢化が進み、各地域団体の担い手不足が進んでいるが、現役世代は仕事や家庭が優先されるため、地域活動への参加は難しい。一方、防災や防犯、高齢化への対策など、コミュニティ形成の必要は高まっており、片瀬地区地域まちづくりのテーマ「歴史の薫りと潮の香りがたがようふれあいのまち 片瀬・江の島」を実現するために、地域特性を生かしたまちづくりを地域主体で進めていく必要がある。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
地域課題である担い手不足の解消を目的に、若い世代を対象としたイベント等を実施するとともに、まちづくり事業で取り組んでいるデジタルを利用した「片瀬地区 KEIJI BAN」の普及促進を図ることなどにより、高い自治会加入率を維持する。 ・自治会加入率 ・電子掲示板の登録数			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
ICTの活用等により、地域に住む誰もが地域活動に参加することができ、人と人がつながり支え合い、豊かに暮らすことができるよう、地域づくりをさらに充実させることにより、地域住民が中心となったまちづくりが実現されている。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
生活防災を考える事業の津波避難アートの制作・活用により、住民の防災意識が日常の中に溶け込み、視覚的な啓発を通じて、「災害に強い安全・安心なまち(基本目標1)」へ繋げる。歴史文化セミナー等の支援を通じて、地域のアイデンティティが次世代へ継承、「文化・スポーツを盛んにする(基本目標2)」の原動力へ繋げる。江の島弁天橋等の植栽活動を通して、住民、各種団体等が連携する仕組みが確立され、この活動が「多様な主体との共創(基本目標8)」として一体感のある地域づくりに繋げる。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること	2.94	2.93	2.74
把握した市民等のニーズとその対応			
津波などの大規模災害に対する地域防災体制の強化と、日常生活の中で気軽に参加・学習できる防災機会の充実を求める声が高まっていることに対し、郷土づくり推進会議のワーキンググループにおいて、地域の防災課題を整理し、具体的な解決策の検討を進めている。地域住民が親しみやすいイベントを企画し、そのプログラムに防災の視点を組み込むことで、幅広い層への防災意識の浸透とコミュニティの強化を図る。			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 ■インクルーシブ藤沢 □スマート藤沢
人口減少や担い手不足などの課題に対し、ICTの活用等によって多様な主体がその時々のライフスタイルに合わせて地域に関われる環境(インクルーシブ)を整えることが、結果として地域活動の担い手を絶やさず、次世代へ活動を繋いでいく(サステナブル)取組を行うため。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	質の高い教育をみんなに
②	住み続けられるまちづくりを
③	パートナーシップで目標を達成しよう

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	明治地区まちづくり事業費	所管課	明治市民センター
まちづくりテーマ		重点施策名	
2.誰もが、豊かに生活し、支えあう社会をつくる		コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進	

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
①郷土づくり推進会議をはじめ、各種地域団体において担い手となる人材が高齢化している。現役世代は仕事、家庭が優先されるため、地域活動への積極的な参加は難しい。一方で、東日本大震災後、地域の絆、地域コミュニティの重要性の認識は高まっている。 ②湘南C-Xに代表される新しい街と旧来の街とが併存している。 ③住宅開発に伴う人口の増加傾向が続くとともに、街並みが大きく変化している状況にある。明治地区の課題や特性をとらえたまちづくりを推進する。郷土愛あふれるまちづくりを実現するため、地域の声や地域特性を生かした事業を展開する必要がある。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
市民意識調査における明治地区の数値 ・「誰もが快適に暮らせ、居心地のいいまちであること」(安全安心部会) ・「保健、医療、福祉、健康などの生活環境が整い、暮らしやすいこと」(健康生きがい部会) ・「まちに子どもの笑顔があふれていること」(子ども子育て部会) ・「地域の歴史や文化が継承されていること」(歴史文化部会)			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
①明治郷土史料室運営委員会を中心に、様々な機関と連携し、ICTも活用しながら歴史・文化資産が継承され、郷土愛が育まれている。 ②地域に暮らす人がマナーを守り、安全安心に暮らせるまちになっている。 ③子育て世代が孤立することなく、様々な機関や団体に支えられながら、地域に根付いた子育てができている。 ④住民相互の交流、世代間交流が活発で、健康でいきいきと生活できている。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
自治会・町内会をはじめとする様々な地域活動団体による活動を支援することで、基本目標8に掲げる「地域を支える活動への若い世代の参画を促進するとともに、地域で行われている多様な活動を、持続可能な地域づくりにつなげていくこと」が図られた。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること	2.94	2.93	2.74
把握した市民等のニーズとその対応			
道路や公園といった公共設備、施設に対する要望やごみの不法投棄、及び安心安全部会にてブロック塀の危険個所について業務主管課への情報提供を行った。			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 ■インクルーシブ藤沢 ■スマート藤沢
ICTを活用しながら、様々な世代の交流を促し、郷土愛を育むため。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	すべての人に健康と福祉を
②	住み続けられるまちづくりを
③	パートナーシップで目標を達成しよう

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	御所見地区地域まちづくり事業費	所管課	御所見市民センター
まちづくりテーマ		重点施策名	
2.誰もが、豊かに生活し、支えあう社会をつくる		コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進	

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
少子・超高齢化の進展と人口減少、コミュニティの希薄化により全国的に地域活力の低下が懸念されるとともに、生産年齢人口の減少・扶助費の増大により財政基盤が脆弱化していく。住民による地域課題の共有と解決。地域団体間の交流による活性化を図るため、既存事業を継続・発展させる必要がある。また、高齢化・後継者問題による地区内荒廃農地の増加や、住民の自治会離れによる地域コミュニティの低下を抑制するとともに、地域の魅力を向上させる必要がある。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
御所見地区地域まちづくり事業を継続実施することにより、地域団体同士の連携と活性化を図るとともに、地域住民の郷土愛醸成を図り、個々の住民が主体的に地域コミュニティを発展させ、地域の特性を生かしたまちづくり、地域の活性化を実現することができる。			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
地域住民が「田園パーク構想推進事業」を理解・賛同し、個人・団体が主体的・積極的に活動に参加できる状態。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
地域まちづくりのテーマ「みんなが楽しめる心なごむ田園パーク・御所見」を実現し、地域の特性を生かしたまちづくり、地域の活性化が図られた。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること	2.94	2.93	2.74
把握した市民等のニーズとその対応			
①地域団体・ボランティアと連携し、植栽活動を実施することにより地域活性化と、地元産業の周知を図る。②地区内の農畜産物を活用した「食」の提供促進と「御所見ブランド」の創出を図る。			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 □インクルーシブ藤沢 □スマート藤沢
郷土愛、シビックプライドの視点	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	飢餓をゼロに
②	陸の豊かさも守ろう
③	住み続けられるまちづくりを

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	遠藤まちづくり推進事業費	所管課	遠藤市民センター
まちづくりテーマ	重点施策名		
2.誰もが、豊かに生活し、支えあう社会をつくる	コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進		

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
郷土づくり推進会議をはじめとした各種団体の担い手不足と高齢化が顕著であり、自治会加入率が低くなる一方で、高齢者の増加に伴い見守り活動や核家族化による子育て支援など地域に期待される領域は拡大している。遠藤地区の地域まちづくりテーマ『人と自然がいきづま』夢のあるまち遠藤を実現するため、高齢者を含め誰もが住み慣れた場所で安心して生活できる環境づくりの推進及び地域の観光資源を利用し、広域的な取組を進めることにより地域振興を図ることを目的としている。これらの事業を実施することにより、郷土愛あふれるまちづくりが達成されるため必要性がある。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
・令和7年度拡大版見守りネットワーク会議の参加者アンケートにおいて、見守り・つながりの意識の変化が「とても高まった」・「高まった」と答えた人の割合が76%である中で、回答者の年代中55%が70代以上であった。そのため、令和8年度は幅広い年代に見守りの意識を広げるため、地域の中学生を対象に認知症サポーター養成講座を実施する。 ・遠藤魅力アップ推進事業として、令和7年度は小出川彼岸花まつりの支援に加え遠藤散策を含めて3回実施し、令和8年度は藤沢産果物収穫体験を含めて4回実施する。			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
地区への愛着を育んでいくため、地域に根付いた事業を継続し、現役世代がまちづくりに参加できるような魅力ある将来のまちの姿を検討、発信していく。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
基本目標8「多様な主体との共創が生み出される地域づくりを進める」にあるように、地域特性を踏まえつつ、時代のニーズに合わせた事業を継続することにより、幅広い世代がそれぞれの地区に関心を持ち、持続可能な地域づくりが実現できるようにする。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること	2.94	2.93	
市民や企業、地域活動団体等の多様な主体が関わる地域づくりが進んでいること			3.24
把握した市民等のニーズとその対応			
アンケート調査結果の分析を行い、来年度に向けて、地区の課題解決を検討していく。			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 ■インクルーシブ藤沢 □スマート藤沢
地域主体のまちづくりを進めるためには地域団体と行政とのマルチパートナーシップが必要である。高齢化が進む中、高齢者が住み慣れた地域で孤立することなく、安心して住み続けられる環境を整備していくため。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	住み続けられるまちづくりを
②	パートナーシップで目標を達成しよう
③	

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	長後地域活性化事業費	所管課	長後市民センター
まちづくりテーマ		重点施策名	
2.誰もが、豊かに生活し、支えあう社会をつくる		コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進	

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
少子化、急激な超高齢化社会の到来を背景に、老々介護、買い物弱者問題、災害時の助け合い等の地域課題の増大や複雑化、自治会未加入、役員の担い手不足等の地域との関わりの希薄化といった共通の地域課題がある。長後地区においても、各地域団体において担い手となる人材が高齢化している現状がある。地域の絆、コミュニティの維持・発展の必要性に対する認識は高まっているものの、現役世代は仕事、家庭が優先されるため、地域活動への参加があまり見込めない状況がある。長後地区地域まちづくりのテーマ「さあつくろう！まちの輪・ひとの和・みどりの環」を実現するため、地域の特性をいかした事業を実施することにより地域の活性化を図るまちづくり事業が必要である。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
令和7年度の長後子育てメッセの実施に際しては、地域の協力団体が計13団体、スタッフとして各地域団体等から計69名のボランティアが参加。それぞれの会議体での周知も図られ、地域内の子育て支援の意識が高まった。その結果、来場者アンケートでは約80%の親子が満足したと回答し、有効性が示されたと捉えている。			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
地域住民と行政が協働して地域の課題に取り組み、地域コミュニティの維持及び発展に寄与している。地域のまちづくりを推進するために、郷土づくり推進会議が主体となり地域の特性を生かした事業に取り組んでいる。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
地域まちづくりのテーマ「さあつくろう！まちの輪・ひとの和・みどりの環」を継続的に推進していく中で、地域の課題解決に向けて様々な団体が協働して事業を実施するなどの取組は、基本目標8にある「多様な主体との共創が生み出される地域づくりを進める」に寄与するものと捉えている。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること	2.94	2.93	2.74
把握した市民等のニーズとその対応			
長後地区全体集会で要望を受けて長後地区整備促進委員会が再開し取組が行われている。			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 ■インクルーシブ藤沢 □スマート藤沢
郷土愛あふれる、いつまでも住み続けたいまちを目指し、「まちの輪・ひとの和・みどりの環」をテーマとして、次世代のまちづくりを担う人材を発掘し育成する事業、住み続けたいまちづくり事業に取り組んでいる。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	すべての人に健康と福祉を
②	住み続けられるまちづくりを
③	パートナーシップで目標を達成しよう

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	辻堂地区地域まちづくり事業費	所管課	辻堂市民センター
まちづくりテーマ		重点施策名	
2.誰もが、豊かに生活し、支えあう社会をつくる		コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進	

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
地域の絆、コミュニティの必要性の認識は高まっている一方で、郷土づくり推進会議をはじめとする各種地域団体においては担い手となる人材が不足しており、役員等も高齢化している現状がある。また、高齢化の進行以上に、地域のつながりの希薄化が進行しており、支援の意思はあるものの「関わり方が分からない」状態が顕在化している。このことを踏まえ、防災・福祉・交流・広報を掛け合わせ、一体的推進を図るとともに、平時から顔の見える関係を構築し、非常時にも機能する地域へ転換することにより、地域まちづくりのテーマ「歴史と緑と潮風のかおる、健やかなまち「湘南辻堂」」の実現を目指す。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
各事業や市民センターまつりにおいて参加者アンケート等を実施し住民ニーズを把握する。			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
地域の活性化や地域の魅力を高め、地域で支えあい、人と人がつながる地域の拠点となる。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
郷土づくり推進会議のプラットフォーム機能を強化することにより、「地域における様々な課題を市民と市とが共有し、適切な役割分担による「地域づくり」を市内の横断的な連携により進める取組をさらに深化させていく」ことが図られた。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること	2.94	2.93	2.74
把握した市民等のニーズとその対応			
必要に応じ、辻堂地区地域まちづくり事業に反映させ、地域課題解決のための取組を行う。			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 ■インクルーシブ藤沢 ■スマート藤沢
・地産地消の取組など、郷土愛あふれるまちづくりを推進している。・支えあいによる地域共生社会の実現を目指して取り組んでいる。・事業にオンライン開催を取り入れる等、デジタル化を推進している。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	すべての人に健康と福祉を
②	住み続けられるまちづくりを
③	パートナーシップで目標を達成しよう

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	善行地区まちづくり事業費	所管課	善行市民センター
まちづくりテーマ		重点施策名	
2.誰もが、豊かに生活し、支えあう社会をつくる		コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進	

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
郷土づくり推進会議をはじめ各地域団体において、担い手となる人材の不足や、地域住民の高齢化が進み、地域活動への参加が伸び悩んでいる状況がある。一方で、近年多発する自然災害等を受け、地域の絆やコミュニティの必要性の認識は高まっているものの、自治会加入率の低迷については、効果的な対応方法を見だせていない。さらに、コロナ禍の影響で地域コミュニティの基盤が揺らいでいるとともに、地域住民のニーズが複雑化・多様化する中、これまでのような手法では対応できない案件が生じる可能性も想定される。善行地区地域まちづくりのテーマ「みんなが元気で、誰にもやさしい 坂のまち」を実現するため、多様な主体との連携を通じ、地域の特性を生かしたまちづくり事業が必要である。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
・善行地区郷土づくり推進会議の活動内容をよく知っている人の割合(全体集会参加者アンケート結果による) 令和5年度53.3% 令和6年度51.7% 令和7年度62.1%(目標:令和10年度までに65%以上) ・のりあい善行の年間乗車人数 令和5年度15,515人 令和6年度16,309人 令和7年度15,906人(目標:令和6年度数値の維持)			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
さまざまな地域課題の解決に向け、多様な主体とのパートナーシップに基づく取組やICTの積極的な活用を通じ、各地域団体等の担い手の負担を軽減しながら、柔軟できめ細かな施策の展開が図られていること。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
各事業を推進することで、基本目標5に示す「地域の人たちがお互いに支えあい、年齢や障がいに関わらず、自分らしく元気に暮らせるまちづくり」や基本目標6に示す「活力と魅力を感じるまちづくり」、基本目標8に示す「地域活動に参加しやすい環境づくりにより、地域との関わりの中で幸せに暮らせるまちづくり」の取組が図られた。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
誰もが快適に暮らせ、居心地の良いまちであること	3.65	3.67	3.64
市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること	2.94	2.93	2.74
把握した市民等のニーズとその対応			
自治会加入世帯数の低迷や地域団体の担い手不足、高齢化や地域コミュニティの希薄化による地域活動への参加の伸び悩みといった課題に対し、各地域団体等の活動を積極的に発信し、理解・共感を得る工夫を進めるとともに、DXの視点なども取り入れながら改善に努める。また、地区内の交通不便解消については、「のりあい善行」の持続可能な運営に向けた継続的支援や、その他の可能性について柔軟に検討を進めるとともに、将来の地域の担い手育成のため、若者が主体的に事業を企画運営することを通じて郷土愛を育む。			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 ■インクルーシブ藤沢 ■スマート藤沢
郷土愛に基づき、誰もが安心して住み慣れた地域に暮らし続けることができるよう、ICTの活用も踏まえながら、多様な主体とのパートナーシップに基づくまちづくりを推進する事業であるため。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	ジェンダー平等を実現しよう
②	住み続けられるまちづくりを
③	パートナーシップで目標を達成しよう

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	湘南大庭地域まちづくり事業費	所管課	湘南大庭市民センター
まちづくりテーマ		重点施策名	
2.誰もが、豊かに生活し、支えあう社会をつくる		コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進	

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
13地区の中でも一番高齢化率が高く、地区人口の1/3が高齢者となっており、各団体においても担い手の高齢化や担い手不足が進んでいる。地域住民の生活や健康に対する不安、地域コミュニティの希薄、デジタル化社会への対応などが課題となっている。市民及び地域団体等の参画により、地域の資源や特性を生かした郷土愛あふれるまちづくりを推進する。郷土づくり推進会議において検討されている湘南大庭地区の地域課題の解決につながる、地域主体のより良いまちづくりを進めるために必要な事業を行う。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
「住みたい 住み続けたいまち 湘南大庭」を実現するため、若者参加型イベント等において参加者アンケートを実施し、住民ニーズを把握する。			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
若者参加型イベントが活性化しており、市政運営の総合指針に関する市民意識調査の「子どもが大人になっても愛着の持てるまちであること」について評価されている。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
郷土づくり推進会議を中心とした地域主体の取組に加え、大学や民間企業等の多様な主体と連携・協働したまちづくりを展開することにより、基本目標8に示す「多様な主体との共創が生み出される地域づくりを進める」が図られ、2045年においても多世代が支え合い、誰もが愛着を持って安心して暮らし続けられる「住みたい 住み続けたいまち 湘南大庭」の実現に寄与する。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること	2.94	2.93	2.74
子どもが大人になっても愛着の持てるまちであること	3.71	3.77	3.77
把握した市民等のニーズとその対応			
地区全体集会における参加者からの意見やアンケート結果について、郷土づくり推進会議において対応が可能か検討を行っている。また、推進会議企画の各事業についてはその都度アンケート結果を集約し部会により次の事業構築に反映させている。			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 ■インクルーシブ藤沢 ■スマート藤沢
地域まちづくりのテーマ「住みたい 住み続けたいまち 湘南大庭」を実現するため、地域団体、大学や民間企業等などの多様な主体と連携・協働を図り、地域課題の解決に必要な事業を実施する。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	すべての人に健康と福祉を
②	住み続けられるまちづくりを
③	パートナーシップで目標を達成しよう

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	湘南台地域まちづくり事業費	所管課	湘南台市民センター
まちづくりテーマ		重点施策名	
2.誰もが、豊かに生活し、支えあう社会をつくる		コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進	

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
郷土づくり推進会議をはじめとした各種地域団体において担い手となる人材の高齢化が進んでいる現状がある。現役世代においては、共働き世帯の増加などから地域活動への参加が難しい状況が深刻化している。湘南台地区地域まちづくりのテーマ「川と緑に囲まれ、豊かな文化を育て、みんなで創るまち湘南台」の実現に向けた取り組みとして、各種事業を実施し、まちづくりの推進を図るため必要である。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
地域住民が主体となってまちづくりを進める地区を目指して、湘南台地区では主にイベント活動を通じてまちの賑わいを創出する取組を進めている。イベント開催数は増加傾向(R5年度から約40%増)にあり、イベント活動に関わる主体数も増加(R5年度から約57%増)してきていることから、本事業の取組の成果が着実に効果として表れている。			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
郷土づくり推進会議で立ち上げた事業を、地域住民(団体)等が実施運営できるよう、担い手を育成・支援し、多様な主体との共創が生み出され、賑わいのあるまちづくりを推進する。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
郷土づくり推進会議を地域のハブとして、多様な主体との共創が生み出される地域づくりを推進している。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること	2.94	2.93	2.74
把握した市民等のニーズとその対応			
地区全体集会で収集した意見・要望等について、広報紙で公表するとともに、「郷土づくり推進会議」において再確認し、まちづくり事業として対応できるものは対応していくこととした。			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 ■インクルーシブ藤沢 □スマート藤沢
地域自治、まちづくりの検討機関である湘南台地区郷土づくり推進会議において検討している地域課題の解決のため、当該会議と市との協働により地域まちづくり事業を実施することで、地域住民が主体的に地域づくりに携わっている。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	すべての人に健康と福祉を
②	住み続けられるまちづくりを
③	パートナーシップで目標を達成しよう

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	鵠沼地区まちづくり事業費	所管課	鵠沼市民センター
まちづくりテーマ		重点施策名	
2.誰もが、豊かに生活し、支えあう社会をつくる		コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進	

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
各地域団体の構成員や地域ボランティアの高齢化が進み、今後の担い手不足が懸念されている。現役世代は仕事や家庭が優先されるため、地域活動への参加はあまり見込めない状況がある。一方で、災害対応等のため、地域における人と人の絆やコミュニティの形成の必要性に対する認識は高まっていると思われる。地域主体のまちづくりのテーマ「緑と海と人が輝くまち 湘南ふじさわ鵠沼」を実現することを目的に、地域力を生かしたさまざまなまちづくり活動・事業を行うことにより、地域の特性に応じたまちづくり推進へとつなげる必要性の高い事業である。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
地域まちづくりのテーマ「緑と海と人が輝くまち 湘南ふじさわ鵠沼」の実現のため、鵠沼地区郷土づくり推進会議がさまざまな事業を展開し、それら事業の参加者や担い手の増加によって、地域活性化の推進が図られる。鵠沼海岸まつりの来場者は開催時期や天候によって変動が生じるが、令和8年度は3,500人、9年度は3,800人、10年度4,000人と目標を設定するなど、継続的な実施により参加者だけでなく、担い手の増加を目指すもの。			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
子どもから高齢者まで、誰もが住みやすい地域づくりへとつなげていくために、地域住民が住民の視点で、地域の課題を共有、提言する場が継続されている。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
各種事業を通じた地域活動の担い手の発掘が将来にわたり持続可能な支えあいの地域づくりが進み、基本目標8に示す「多様な主体との共創が生み出される地域づくりを進める」の実現に寄与した。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること	2.94	2.93	2.74
市民主体のまちづくり活動	3.12	3.11	3.13
把握した市民等のニーズとその対応			
全体集会等について継続的に実施し、対行政ではなく市民同士が直接地域について語り合える場の必要性を認識できた。また、災害時の拠点機能整備、津波避難機能拡充の観点はもとより、多様な地域活動の拠点という観点からも鵠沼市民センター再整備の進捗を図る。			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 ■インクルーシブ藤沢 □スマート藤沢
地域住民、地域団体の代表からなる会議体で行政のみでは気づかない地域の課題を共有し、市へ提言することにより持続可能な地域づくりへとつなげていけるため。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	質の高い教育をみんなに
②	住み続けられるまちづくりを
③	パートナーシップで目標を達成しよう

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	鵜沼市民センター改築事業費	所管課	鵜沼市民センター
まちづくりテーマ		重点施策名	
2.誰もが、豊かに生活し、支えあう社会をつくる		コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進	

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
施設老朽化による行政サービス低下を解消し、地域住民の交流促進によるコミュニティ活性化をめざすとともに、津波等災害に対する防災機能強化を図る。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
災害からより多くの人命を守り、地域住民の安全・安心な暮らしを実現するため、また、地域コミュニティの活性化、地域共生社会の実現につなげるため、地域の拠点施設として必要な機能を整備するもの。再整備後の津波避難可能人数3,560人。			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
①津波に対する防災機能が強化され、指定緊急避難場所として災害からより多くの人命を守り、地域住民の安全・安心な暮らしを実現する施設、②子供から高齢者まで、さまざまな目的を持った方々が集い、交流することで、地域コミュニティが活性化するとともに、地域共生社会の実現に寄与できる施設、として鵜沼地区住民等に対し、安定的に行政サービスを提供している。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
再整備事業の完了により防災機能の強化が図られ、基本目標1に示す「安全・安心なまちをつくる」の実現に寄与した。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
公共施設を次世代のために、より良い状態で引き継いでいると感じますか？	2.71	2.79	2.83
生涯学習の機会や場の提供について	3.07	3.03	3.06
把握した市民等のニーズとその対応			
令和5年5月より鵜沼地区住民等を対象に5回の意見交換会(1回あたり、日時を変えて3回ずつ開催したため、計15回)を実施し、意見・要望を把握し、設計等に反映をさせた。			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 ■インクルーシブ藤沢 □スマート藤沢
鵜沼地区の拠点として、安定的な行政サービスの提供を継続することで、持続可能な地域づくりへとつなげていけるため。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	住み続けられるまちづくりを
②	
③	

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	藤沢地区まちづくり事業費	所管課	藤沢市民センター
まちづくりテーマ		重点施策名	
2.誰もが、豊かに生活し、支えあう社会をつくる		コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進	

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
自治会町内会等の地域団体において、役員等で中心的に活動されている方について引き継いで活動する方が少なく、多くの方が活動を継続することが多く見受けられる。また、担い手が少ないために、複数の団体で役員等を掛け持ちして活動することも多い。 重点施策「コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進」を実現するため、地域の特性を生かしたまちづくり事業を進める必要がある。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
藤沢地区の地域資源である「藤沢宿」を周知するために後援した、地域住民との交流を促進する「藤沢宿まつり」の来場者数 令和7年度(目標)1,000人(実績)1,250人			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
地域課題の解決と地域活性化を図るため、郷土づくり推進会議で企画した事業について、地域住民が理解・賛同し、地域が主体となって実施運営できる体制が構築されている。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
藤沢地区の特性を生かした事業を引き続き実施したことにより、基本目標8に示す「地域課題を市民と市とが共有し、適切な役割分担による地域づくりの取組の深化」が図られた。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること	2.94	2.93	2.74
市民主体のまちづくり活動	3.12	3.11	3.13
把握した市民等のニーズとその対応			
藤沢地区郷土づくり推進会議をはじめとした地域団体において、ニーズを把握するとともに郷土づくり推進会議の全体集会で意見集約を行っている。把握されたニーズへの対応としては、都度、関係各課と連携し解消に努めている。			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 ■インクルーシブ藤沢 ■スマート藤沢
地域課題について地域住民と行政が協働で取り組むことにより、郷土愛あふれるまちづくりが推進され、多くの人がまちづくりに関わる地域が形成される。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	質の高い教育をみんなに
②	住み続けられるまちづくりを
③	パートナーシップで目標を達成しよう

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	村岡いきいきまちづくり事業費	所管課	村岡市民センター
まちづくりテーマ		重点施策名	
2.誰もが、豊かに生活し、支えあう社会をつくる		コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進	

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
地域住民の自治町内会の加入率低下や高齢化等に起因する担い手不足が顕在化してきている。地域まちづくりのテーマ「ふれ愛 ささえ愛 絆ではぐくむ “輝ら里” むらおか」を実現するため、様々な事業を実施し、郷土愛あふれるまちづくりを推進するために必要である。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
各事業や村岡ふれあいまつりにおいて参加者アンケート等を実施し住民ニーズを把握する。			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
村岡地区郷土づくり推進会議が立ち上げた事業を地域住民だけで実施できるよう、担い手の育成・支援を行い住民が主体となって地域の活性化を図る。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
地域まちづくりのテーマ「ふれ愛 ささえ愛 絆ではぐくむ “輝ら里” むらおか」の実現に向け、地域団体との連携、協働を進めるとともに、地域の特性を生かした各種事業を実施することにより、基本目標8に示す「多様な主体との共創が生み出される地域づくりを進める」が図られた。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること	2.94	2.93	2.74
把握した市民等のニーズとその対応			
郷土づくり推進会議から地域の防災について様々な意見提案がなされている。引き続き、郷土づくり推進会議等において検討を行う。			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 ■インクルーシブ藤沢 ■スマート藤沢
若い世代、子育て世代等、幅広い世代の1人でも多くの方が参加できるように環境を整え、オンライン等を活用し事業展開を行うため。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	すべての人に健康と福祉を
②	住み続けられるまちづくりを
③	パートナーシップで目標を達成しよう